



関西学院大学リポジトリ

Kwansei Gakuin University Repository

現代語における体言を骨子とする文： 2 つの文の種類にまたがる両属的なありようをめぐって

| | |
|-----|---|
| 著者 | 笹井 香 |
| 雑誌名 | 日本文藝研究 |
| 巻 | 70 |
| 号 | 2 |
| ページ | 1-15 |
| 発行年 | 2019-03-30 |
| URL | http://hdl.handle.net/10236/00027593 |

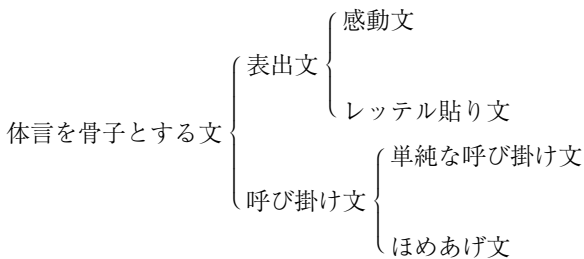
現代語における体言を骨子とする文

—— 2つの文の種類にまたがる両属
的なありようをめぐる ——

笹 井 香

1. はじめに

現代語における体言を骨子とする文の種類として、「感動文」(笹井香 2005, 2006)、「レッテル貼り文」(笹井香 2017)、「単純な呼び掛け文」(笹井香 2015, 2018)、「ほめあげ文」(笹井香 2018) が挙げられる。感動文とレッテル貼り文は表出文の一種で、単純な呼び掛け文とほめあげ文は「呼び掛け文」(笹井 2015, 2018) の一種であり、体系的に示すと以下のようなになる。



これらの文はその機能や表現に相応した形式を備えている。そのため、体言を骨子とする単純な形式であるにも関わらず、どの文も異なる形式的特徴をもつ。ところが観察される用例の中には、2つの文の種類のいずれとしても解釈できる例がある。即ち、これらは両属的であると言えるだろう。笹井 (2005: 8) では感動文と単純な呼び掛け文の両属的なありようをもつ例について、笹井 (2005: 14-15, 2017: 33) ではレッテル貼り文と感動

文の両属的なありようをもつ例について、さらに、(笹井 2018: 15-16) においては、単純な呼び掛け文とほめあげ文の両属的なありようをもつ例について指摘した。また、笹井 (2015: 22-23) では、文の種類としての位置づけはしていないが、「例文 25-27『少佐……！』などの文」が話し手の情意を表出すると同時に呼び掛け文としても機能することを述べた。

本稿は、上述のような体言を骨子とする文の機能や表現、形式を概観しつつ、2つの文の種類にまたがる両属的なありようについて整理することを目指す。

2. 感動文と単純な呼び掛け文の両属的なありよう

2-1 感動文の構造と形式

感動文とは、笹井 (2006: 16-17) において「文に示されている情報についての伝達を目的とはしない、話し手の感動を表出する文」であり、「話し手の感動を表してさえいれば感動文となるのではなく、文の形式によって表現が支えられていなければ文の種類としての感動文とは見なせないのである」と述べるような、文の形式の支えをもつ、話し手の感動を表出することを専らとする文のことである。

現代語の感動文には、感動喚体句 (山田孝雄 1936) の系統の「美しい花！」のような A 型感動文と、「なんと美しい花だろう！」のような疑問文に由来する B 型感動文の二系統があるが、笹井 (2006) で論じたように、いずれも「句的体言」(川端善明 1963, 1965) の構造をもつものと把握される。句的体言とは、川端 (1965: 35) が『『美しき花』は連体修飾語を含んだ一つの語ではなく、「花」と「美し」の主述性において構成された一つの句であり、しかもその述語の「コレ」の定立をなす自同性において、こととしての句の極限」と述べるものである。感動文の形式的類型は「表1」に示すとおりで、A 型、B 型ともに句的体言で「属性概念を持つ語+体言」の構造をもつ形式となっている。

A 型感動文の形式は「A-1 逆述語タイプ」、「A-2『(～)の～こと』タイプ」、「A-3『～の～さ』タイプ」、「A-4 形容詞語幹・形容動詞語幹タイプ」、「A-5 形容動詞連体形タイプ」の5つの類型に分けられる。「A-1 逆述語タイプ」、「A-2『(～)の～こと』タイプ」は属性概念をもつ語が体言を修飾することによる句的体言で、「A-3『～の～さ』タイプ」は属性概念をもつ語が体言となって現れ句的体言を構成しているものである。また、「A-4 形容詞語幹・形容動詞語幹タイプ」と「A-5 形容動詞連体形タイプ」は、体言資格をもつ形式による句的体言である。属性概念をもつ語である形容詞、形容動詞が、体言資格をもつ形式である形容詞語幹、形容動詞語幹、形容動詞連体形で文として運用されており、句的体言を構成していると考えられるものである。

B 型感動文もまた、「表1」に示すように、上述のようなA型の「A-1」から「A-5」の形式的類型と同様の基準で、「なんと」のあとに続く「属性概念を持つ語＋体言」の構造をもつ形式を「B-1」「B-2」「B-3」「B-4」「B-5」の5つの類型に分類できる。

表1 (笹井 2006: 28 の「表2」を引用)

| A 型感動文 | | B 型感動文 | |
|--------|---|--------|--|
| A-1 | <u>美しい花</u> ！ | B-1 | なんと <u>美しい花</u> （だろう／か／だ）！ |
| A-2 | （この花の） <u>美しいこと</u> ！ 変なの！ | B-2 | （この花の）なんと <u>美しいこと</u> （だろう／か／だ）！ なんて立派なの（だろう／か／だ）！ |
| A-3 | この花の <u>美しさ</u> ！ 彼の演奏のこの <u>優雅さ</u> ！ | B-3 | （この花の）なんと <u>いう美しさ</u> （だろう／か／だ）！ なんて <u>優雅さ</u> （だろう／か／だ）！ |
| A-4 | <u>熱</u> （あつ）！ <u>きれい</u> ！ | B-4 | ※1 なんて <u>正直</u> ！ |
| A-5 | ※2 <u>ばかな</u> ！ | B-5 | なんて <u>かわいい</u> ！ なんと <u>大変な</u> ！ |

※1 B-4 には A-4「熱（あつ）！」に対応する形容詞の形式が観察されない。

※2 A-5 は形容詞を考察の対象外とした。

2-2 感動文の機能と表現

感動文は、2-1 節で述べたように、話し手の感動を表出することを専ら

とする文である。感動文を発話することは「感動する」という行為である。また、感動文に表現されるのは、「語列自身が構成する『コト』に対する話し手の情意」であるが、「話し手にとって事態がありふれた普通の事態であれば、感動の対象にもならないし、感動文として表出される」こともないため、感動文は、文が構成するコト、即ち、文が表す事態のもつ属性の「程度の甚だしさ」に対する話し手の感動を表していると考えられる（笹井 2005:4）。「美しい花！」であれば、その花の美しさの程度の甚だしさに対する話し手の感動が表現されているのである。

2-3 単純な呼び掛け文の機能、形式

例文 1⁽¹⁾「佐藤さん。」のような「呼び掛けた対象に働きかけ、注意を喚起する機能」（2015:14）をもつ文を単純な呼び掛け文と呼ぶ。

- 1 佐藤さん。そこの資料を取ってくれますか。（笹井 2015 例文 6 に相当）

大鹿薫久（1988:99）が「おとうさん！／先生！／太郎！などの呼掛けの場合、それを口にすることが呼び掛けるとのことになっているのは『よう』や『さあ』と同様であるが、なお呼び掛ける相手を指定しての呼掛けになっている。」と述べるように、単純な呼び掛け文を発話することは「呼び掛ける」という行為である。

呼び掛け文として運用される名詞は「呼び掛けた対象の注意を喚起しうるものでなければならず、それが発話される言語場においては、話し手から見た関係性において、特定の個人を指示することができるという特徴」（笹井 2015:17）をもつ。

呼び掛け文は「呼び掛けた対象が聞き手として言語場に存在していることを前提として発話」（笹井 2015:17）される。例文 2-3「じいちゃん！」「少佐ーっ」「少佐～っ」のように、実際には亡くなっておりその言語場には実在しない人を呼び掛ける用例や、その言語場に存在しているかしてはいないが定かではない人を呼び掛ける用例も観察されるが、このような用

例においても、呼び掛ける対象が聞き手として言語場に存在していることを前提として発話されている（笹井 2015 : 17）。

- 2 （他界した祖父との約束を果たし、目の前に広がる海と空に向かって叫ぶ）「じいちゃん！ おれ約束どおり地球岬にきたぜーっ やったぜーっ」『ギン』 4 巻 p.183（笹井 2015 : 16 の例文 20 に相当）
- 3 （生き埋めになった少佐を瓦礫をどけながら探している）部下 1「少佐ーっ」部下 2「少佐〜っ」『愛』 デラックス版 10 巻 p.256（笹井 2015 : 16 の例文 21 に相当）

2-4 感動文と単純な呼び掛け文の両属的なありよう

感動文と単純な呼び掛け文のいずれにも解釈できる例文 4「かわいそうなジゼルよ……！」のような用例が観察される（笹井 2005 : 8）。

- 4 （自分の裏切りで狂死してしまった恋人ジゼルを思いながら）「ぼくは なんという罪ぶかいことをしてしまったんだろう！……どうか許しておくれ。かわいそうなジゼルよ……！」「ジゼル」p.50（笹井 2005 : 8 の例文 9 に相当）

これは「A-1 逆述語タイプ」の感動文としても、単純な呼び掛け文としても解釈できる用例である。

例文 4「かわいそうなジゼルよ……！」がジゼルの哀れさへの情意を表出していると理解すると、「ジゼルがかわいそうであるコト」を構成する句の体言で感動文と把握されるし、ジゼルを聞き手として発話されていると理解すると呼び掛け文だと把握され、「かわいそうな」は「ジゼル」の連体修飾語で、文の構造は「(かわいそうな) ジゼルよ」である。

助詞「よ」は、「美しい花よ！」のように感動文に観察されると同時に、「父よ！」のように呼び掛け文にも観察され、「その名詞が呼格であることを明示し、呼び掛けの形式にする働き」（笹井 2015 : 19）をもつ。このことから、例文 4「かわいそうなジゼルよ……！」は「呼びかけでもあり、情意表現でもあり、いずれかとして理解されるのではなく、両方の性質を

兼ね備えたもの」(笹井 2005: 8) と理解され、感動文と単純な呼び掛け文にまたがる両属的なありようを示す用例と言えるだろう。

3. 単純な呼び掛け文とほめあげ文の両属的なありよう

ほめあげ文とは【よっ (ヨッ)／いよっ (イヨッ) + 名詞 (「!」、促音化または長音化)】という定型化のもとで文として運用されている例文 5-6 「イヨッ!! 一流大学受験生!!」「よっ 幸せ者お」のような文である。

- 5 (沢田が一人黙々と勉強している姿を見て話しかける) 久美子「おお! さすがに沢田はやってるな!／イヨッ!! 一流大学受験生!!」
『極』15 巻 p.195 (笹井 2018: 1 の例文 3 に相当)
- 6 (テレビ番組のナレーション。画面には直立するレッサーパンダ風太の映像が流れている。風太に嫁と子供ができたことを受けて)「よっ 幸せ者お」『大賞』(笹井 2018: 1 の例文 4 に相当)

ほめあげ文は、単純な呼び掛け文が注意喚起を主たる機能とするのに対して、これに加えて聞き手を「ほめあげる」という固有の機能をもっている文である(笹井 2018: 5)。笹井 (2018) で述べているように、「よっ (ヨッ)／いよっ (イヨッ)」によって、聞き手であるほめあげる対象の注意を喚起し、「一流大学受験生」「幸せ者」などの「ほめあげ名詞」(pp.2-3) を聞き手に聞かせる。そのため、ほめあげ文を発話することは、聞き手である対象を「ほめあげる」という行為になる。

笹井 (2018) で考察したように、ほめあげ名詞は「性質、特徴、属性などを示す要素+人や物を示す要素」という構造をもち、全体が名詞一語であることが保たれているという形式上の特徴がある (pp.10-13)。そのため、ほめあげ名詞が一語ではなくなり、その形式から逸脱すると、その逸脱にともない、ほめあげの機能は感じられるが、注意を喚起する機能が強くなる。「よっ! 幸せ者!」を例に考えると、ほめあげ名詞「幸せ者」に、呼び掛け文で観察される指示詞「そのの」を付し、「よっ! そのの 幸

者！」とすると、「ほめあげる機能はありながらも注意を喚起する機能がより強く感じられ」るようになる。したがって、このような文は「典型的な単純な呼び掛け文と典型的なほめあげ文の中間的な文」と位置づけられる。「よっ！その青い服の幸せ者！」「よっ！そのスキンヘッドの幸せ者！」のような文についても同様で、典型的な単純な呼び掛け文と典型的なほめあげ文との中間的な例と考えられる（pp.15-16）。

また、歌舞伎などの舞台芸術において、観客が役者に「よっ！播磨屋！」のように屋号を呼び掛ける慣習があるが、このような文もまた、単純な呼び掛け文としてもほめあげ文としても機能していると考えられる。笹井（2015, 2018）では、このような文について「ひらきや」という乾物屋の屋号を例に考察した。

7 カンプツさん「うん。ほくこれからも干してますますおいしくなる物をいっぱい干していくよ。」電ボ「いよっ ひらきや！」カンプツさん「ははっ」『おじゃる丸』（笹井 2018：18 の例文 17 に相当）

「ひらきや」は三代続く乾物屋でカンプツさんを指定する固有名詞として一般的に通用しているもので、名詞自体の意味に一般的には価値評価は含まれない。しかし、定型化されたほめあげ文の形式「よっ（ヨッ）／いよっ（イヨッ）+ 名詞（「！」、促音化または長音化）」の支えにより、屋号が言外にも「賞賛に値するブランドとしての意味合い」を読み込むため、そのブランドへの賞賛の気持ちの情意表出としても理解され、ほめあげ文としても機能するのである（笹井 2018：18）。

4. レッテル貼り文と感動文の両属的なありよう

4-1 レッテル貼り文の機能と表現

例文 8 「ばか者！」や、「恥知らず！」「嘘つき！」「親不孝者！」などの文をレッテル貼り文と呼ぶ。

- 8 (部下が仕事にもかかわらず PC で遊んでいるのを見つけて) 少佐
 「仕事のふりして遊ぶな ばか者!」『愛』20 巻 p.40 (笹井 2017:
 19 の例文 3 に相当)

笹井 (2017) で述べているように、例文 8 の「ばか者」という名詞は、その言語場において話し手である少佐が、仕事しながら遊んでいる部下に下した価値評価そのものであり (p.19)、以下の引用が示すように、「ばか者!」と発話することは、いわゆる「レッテルを貼る」という行為そのものである。なお、レッテル貼り文によって下される価値評価はネガティブな価値評価に限られている (p.29)。

「ばか者!」「恥知らず!」のような文においては、話し手が対象に下した価値評価である「ばか者」「恥知らず」がそのまま文として運用されているのである。また、これらの文の形式上の特徴として、なんらかの性質、特徴、属性をもっている人や物を指示する名詞から文が成り立っていることが挙げられる。これらのことには意味がある。それは、話し手が対象に下した価値評価が名詞という形式に表され、文が構成されていると考えられるからである。つまり、「ばか者!」「恥知らず!」と発話することで、その言語場における価値評価を対象に下しているであり、即ち、これらを発話することがいわゆる「レッテルを貼る」という行為そのものである。したがって、「ばか者!」「恥知らず!」は発話行為自体の意味 (=レッテルを貼る) が文の意味として全面に出てくる文だと言えるだろう。そこで、このような「ばか者!」「恥知らず!」などの文を「レッテル貼り文」と呼ぶことにする。(笹井 2017: 20)

ただし、レッテル貼り文はレッテルを貼る対象を聞き手として認定しておらず (笹井 2017: 27)、「レッテルを貼る」という行為は、次の引用のとおり、レッテルを貼る対象を聞き手とする働き掛けを意味しない。レッテル貼り文の機能は、話し手の対象への価値評価にともなう怒りや呆れ、嘲り、蔑み、嫌悪、侮蔑などといった情意の「一方的な」表出である。

レッテル貼り文は対象が言語場に存在することを前提しない。(中略) レッテルを貼り付ける対象が言語場に存在していたとしても、その対象を聞き手として情報を伝達しているのではなく、感動文のような表出文の一種として話し手の一方的な情意を表出しているのである。(中略) このように、レッテル貼り文は、悪態をつくときに用いられ、話し手の対象への価値評価にともなう怒りや呆れ、嘲り、蔑み、嫌悪、侮蔑などといった情意を表出しているのである。即ち、本稿で「レッテルを貼る(貼り付ける)」とは、聞き手に対する働き掛けなのではなく、対象に対する価値評価にともなう上述の情意の表出のことなのである。(笹井 2017: 21)

4-2 レッテルの形式

レッテル貼り文には「この(あの) ばか者!」のように、レッテルを貼る対象を明示する形式である「この」「あの」などが文の形式に含まれる用例が観察されるが、対象への価値評価を表す「ばか者」にあたる部分をレッテルと呼ぶ(笹井 2017: 20)。レッテルは「ばか者」「親不孝者」「嘘つき」「へそ曲がり」「サディスト」などのように「性質、特徴、属性などを示す要素+人や物を示す要素」の構造をもっているが、「性質、特徴、属性などを示す要素」と「人や物を示す要素」が形式上別々になっている「ばか者」「親不孝者」のような名詞がレッテルである場合でも、レッテルが「ばかな／者」「親不孝な／者」のように二語以上に分かれているものは観察されず、レッテル全体が一語であることが保たれている⁽²⁾(笹井 2017: 22)。

4-3 レッテル貼り文と感動文の両属的なありよう

例文 9「バカ!」はレッテル貼り文と感動文のいずれにも解釈できる用例である。

9 (友人に余計なことを言ってしまう、帰り道に一人になってから落ち込ん

で) 陽平 (心内語: う——苦しまぎれに思わずよけいなことを口走ってしまった あーオレって…) (電柱に自分のおでこをわざとぶつけながら、つぶやく) 「バカ!」『ファ』1 巻 p.159

例文 9 「バカ!」は「(ばかな) (人)」を意味する名詞で、前節で述べたレットルの「性質、特徴、属性などを示す要素+人や物を示す要素」という構造をもつ。話し手である陽平が、苦しまぎれに余計なことを口走った自分自身に「バカ」というネガティブな価値評価を下し、その価値評価にともなう怒り、呆れ、嫌悪などの情意を表出しているレットル貼り文だと考えられる。

同時に、「バカ!」は 2-1 節で述べた「A-4 形容詞語幹・形容動詞語幹タイプ」の感動文でもある。「バカ」は、上述のように独立した名詞として運用されるが、形容動詞の語幹でもあるからだ。多くの指摘があるように、形容動詞の語幹は体言資格をもつ⁽³⁾。したがって、「属性概念を持つ語+体言」という構造をもっており、句的体言として「バカであるコト」を構成する。そのため「バカであるコト」という事態の属性の程度の甚だしさに対する話し手の情意を表出している感動文でもあるのである⁽⁴⁾。

5. 「例文 25-27 『少佐……!』などの文」(笹井 2015: 20-23) と単純な呼び掛け文の両属的なありよう

5-1 「例文 25-27 『少佐……!』などの文」(笹井 2015: 20-23) の機能と形式

笹井 (2015) において、呼格体言のみが文を構成する例文 10-12 「少佐……!」「おねーちゃん!!!」「ミチルさん!」を「例文 25-27 『少佐……!』などの文」として論じた。

- 10 (部下 G は、大好きな少佐が乗った飛行機が現れるのを待っている。飛行機が見え、頬を紅潮させて飛行機を見上げながら一人つぶやく) 部下 G 「少佐……!」『愛』デラックス版 9 巻 p.102 (笹井 2015: 20 の例文 25 に相当)

- 11 (プレゼント交換のためにカード入れを用意したが、姉がいたずらをしてトイレットペーパーに入れ替えた。そのことに会場で気付き怒って叫ぶ。
※姉はその場にいない) 容子「おねーちゃん!!!」『正義』6巻 p.62 (笹井 2015: 20 の例文 26 に相当)
- 12 (マークくんはダイエットに挫折しかけていたが、好意をもっているミチルさんを思い浮かべ、再びやる気を取り戻す場面) マークくん (心内語: ミチルさん!) 『ギン』2巻 p.80 (笹井 2015: 20 の例文 27 に相当)

これらは単純な呼び掛け文と同じ形式⁽⁵⁾をもつが、少佐、おねーちゃん、ミチルさんを聞き手とする発話ではなく、明らかに呼び掛け文ではない。「話し手の対象への感情が昂ぶって思わず発せられたものであり、話し手の情意を表出」する文として機能している (笹井 2015: 20-21)。しかし、感動文やレッテル貼り文に表現される情意は「程度の甚だしさに対する話し手の感動」あるいは「レッテルを貼る対象への価値評価にともなう怒りや呆れ、嘲り、蔑み、嫌悪、侮蔑などの情意」のように具体的に把握できるのに対して、これらの文に表現される情意は「話し手が対象に感じている何らかの情意の総体としか言えない未分化なもの」(笹井 2015: 21) としか把握出来ない。それは、2-2 節、4-1 節で述べているように、感動文もレッテル貼り文も、文の機能と表現を支える形式を獲得しているのに対して、これらは呼格体言のみの未分化で単純な形式しかもたないため、文に表出される情意も未分化なものとしてしか把握できないからである。文の機能や表現は形式に支えられているのである。

なお、論を進めるにあたり、これ以降、例文 10-12 「少佐……!」「おねーちゃん!!!」「ミチルさん!」を仮に「未分化な文」と呼ぶこととする。

5-2 未分化な文と単純な呼び掛け文の両属的なありよう

未分化な文が、情意の対象が存在する言語場で発話されている例文 13 「お嬢……」が観察される。呼び掛け文と同じ形式であり、さらに言語場

に「お嬢」が存在しているため呼び掛け文として成立するだけの要件が整っている。そのため話し手に対象（＝お嬢）の注意を喚起する意図がなかったとしても、情意表出と注意喚起の両方の機能を兼ね備えたものと把握される（笹井 2015: 23）。

- 13 お嬢「バカやろっ このハナタレどもっ なに暗くなってるだ
よっ お前らにはあたしがいるだろ？何があったって私はお前ら
の味方 お前らの家族だからなっ」てつ（感涙）「うっ……」ミ
ノル（感涙）「お嬢……」『極』12巻 pp.145-147（笹井 2015: 23 の
例文 29 に相当）

未分化な文について、笹井（2015: 22-23）において、感動文との関わりから「形式もその表現も転一步で感動文には及ばない未分化なものである」と述べたが、「呼格体言のみの未分化で単純」な形式は、感動文に限らず、呼び掛け文、レッテル貼り文など、体言を骨子とする文いずれにも転一步で及ばない（しかし転一步でいずれの文にもなりうる）、文として原始的な形態と言えるだろう。

6. 体言を骨子とする文のそれぞれの特徴と両属性

ここまで概観してきた体言を骨子とする文の特徴と両属性を表にまとめると「表 2」のようになるだろう。「例文」の項目の四角で囲っているのは、2つの文の機能を両属的にもっていると考えられる用例である。文が、2つの文の種類の両方の形式的特徴をもっており、また、どちらの文の言語場としても解釈可能であるとき、発話意図の読み込みによって、このような両属的なありようを示すのである。

7. おわりに

本稿では、体言を骨子とする文である感動文、レッテル貼り文、単純な

表 2

| 呼び掛け文 | | | 表出文 | |
|--|---|-------------------------------------|--|--|
| ほめあげ文 | 単純な呼び掛け文 | 感動文 | レッテル貼り文 | |
| 【よっ (ヨッ) / いよっ (イヨッ) + 名詞】(「!」、促音化または長音化) という定型化のもとで運用され、ほめあげ名詞が「性質、特徴、属性などを示す要素+人」や物を示す要素+人」の構造をもち一語に収斂している | それが発話される言語場においては、話し手から見ただけの関係性において特定の個人を指示することができると | 句的体言であり、「属性概念を持つ語+体言」の構造を持つ形式 | 「性質、特徴、属性などを示す要素+人」や物を示す要素」の構造をもつ名詞。レッテルが一語に収斂している | |
| 形式 | | | | |
| 例 文 | 「よっ！ 幸せ者！」 「よっ！ 一流大学受験生！」 | 「佐藤さん！」 「その人！」 | 「かわいいよ！」 「かわいそうなジゼル」 | 「ばか者！」 「嘘つき！」 「親不孝者！」 |
| | 「よっ！ その青い服の幸せ者！」 | | | |
| | | | | |
| 言語場 | ほめあげる対象が聞き手として言語場に存在することを前提として発話される | 呼び掛ける対象が聞き手として言語場に存在することを前提として発話される | 感動の対象を聞き手として発話ではないため、言語場に対象は必ずしも存在しない | レッテルを貼る対象を聞き手として発話ではないため、言語場に対象は必ずしも存在しない |
| 機能・表現 | ほめあげる対象に働きかけ、注意を喚起し、ほめあげる機能をもつ | 呼び掛ける対象に働きかけ、注意を喚起する機能をもつ | 文に示される事態のもつ程度の甚だしさに対する話し手の感動を表出する | その言語場において対象に下したネガティブな価値評価にともなう怒りや呆れ、嘲り、蔑み、嫌悪、侮蔑などといった話し手の情意を表出する |

呼び掛け文、ほめあげ文の機能や表現、形式を概観し、その両属的なありようについて整理した。

体言を骨子とする文には、「佐藤め！」のような文も観察される。このような文を含めた、体言を骨子とする文の全体的な把握は稿を改めることとする。

注

- (1) 本稿において漫画から例文を掲出する際、吹出に書かれた台詞を「」で括る。同一人物の一連の台詞が複数の吹出に分かれて表記されている場合は「」内をスラッシュで区切って示す。明らかに一文だと分かる文が途中で改行され、一つの吹出内で複数の行に渡って表記されている場合は、原文の改行を反映せず一続きに例文を表記する。原文の文末に句点や感嘆符、疑問符などの区切り符号がない場合、全角のスペースで次の文との区切りを示す。原文のスペースは□で示す。心内語は、心内語と断ったうえで（ ）内に示す。ハートマークのような特殊な記号はそれを反映しない。また、テレビ番組、映画、CMなどの映像作品から例文を掲出する際、同一人物の一連の発話を「」で括って示し、全角のスペースで次の文との区切りを示す。台詞（発言）の長音や促音などは聞き取ったとおりに表記する。出演者名や役名を表記するにあたって敬称は省略する。
- (2) レッテル貼り文においてレッテルは一語に収斂しようとする特徴をもつが、「 $\boxed{\text{NP}_1}$ の $\boxed{\text{NP}_2}$ 」の形式をとっているレッテルも以下の場合に観察される。「任務の権化！」のように、 NP_2 が「非飽和名詞」（西山佑司 2003）であるため、 NP_1 で意味を充足する必要がある場合と、「役立たずのベビーシッター！」のように、「 $\boxed{\text{NP}_1}$ の $\boxed{\text{NP}_2}$ 」の形式をとることで $\boxed{\text{NP}_2}$ が意味する職業、地位の一般的なイメージから外れているという価値評価を含意し「ベビーシッターなのに役立たず」という価値評価を表す場合である（笹井 2017: 24）。
- (3) 形容動詞語幹が体言資格をもつことは、時枝誠記（1905）などで述べられている。
- (4) 「バカ！」の「バカ」を形容動詞語幹と考えると感動文で、名詞だと考えるとレッテル貼り文であることは、笹井（2005: 15）でもふれているが、ここでは「罵ることを目的とする文」としている。これはレッテル貼り文のことを指している。
- (5) 笹井（2015: 28）でも指摘していることだが、例文 10-12「少佐……！」「お

ねーちゃん！！」「ミチルさん！」などの文の形式は、固有名詞や親族呼称、地位名称などに偏って観察され、呼び掛け文に観察される「その人！」のような形式は観察されない。

用例出典

『愛』…青池保子『エロイカより愛をこめて』秋田書店／『愛』デラックス版…青池保子『エロイカより愛をこめて』デラックス版 秋田書店／『ファ』…岡野玲子『ファンシィダンス』小学館文庫／『ジゼル』…谷村まち子『ジゼル』『白鳥の湖 バレエ名作集』ポプラ社／『正義』…聖千秋『正義の味方』集英社／『極』…森本梢子『ごくせん』集英社 YOUCOMICS／『ギン』…大和和紀『ベビーシッター・ギン』講談社／『おじゃる丸』…NHK『NHK アニメワールド おじゃる丸』第10シリーズ第83話「カンブツさんに干せないもの」初回放送2007年11月21日／『大賞』…関西テレビ『平成20年間1億3000万人のがんばった大賞永久保存版！！』2008年1月7日放送

引用文献

- 大鹿薫久（1988）「感動文の構造——句と文についての把握——」『ことばとことのは』第5集 和泉書院
- 川端善明（1963）「喚体と述体——係り助詞と助動詞とその層——」『女子大国文国文篇』15 大阪女子大学
- 川端善明（1965）「喚体と述体の交渉——希望表現における述語の層について——」『国語学』63集
- 笹井香（2005）「現代語の感動喚体句の構造と形式」『日本文藝研究』第57巻2号 関西学院大学
- 笹井香（2006）「現代語の感動文の構造——「なんと」型感動文の構造をめぐって——」『日本語の研究』第2巻1号 日本語学会
- 笹井香（2015）「呼び掛け文」『日本文藝研究』第66巻2号 関西学院大学
- 笹井香（2017）「レッテル貼り文という文」『日本語の研究』第13巻4号 日本語学会
- 笹井香（2018）「ほめあげる機能をもつ文——ほめあげ文について——」『日本文藝研究』第70巻1号 関西学院大学
- 時枝誠記（1905）『日本文法口語編』岩波全書
- 西山佑司（2003）『日本語名詞句の意味論と語用論——指示的名詞句と非指示的名詞句——』ひつじ書房
- 山田孝雄（1936）『日本文法學概論』寶文館
- （ささい かおり・関西学院大学非常勤講師）